



森はおいしい水をつくります

「森はなくてもいい」と言ったヤダリンに、松ぼっくり博士はびっくり。ヤダリンに言いかけます。

- 博士** 「森がなかったら、人類は大変なことになるんだよ」
ヤダリン 「大変なこと？」
博士 「ヤダリンの教科書やこのじょうほう紙は、何でつくられているの？」
ヤダリン 「紙に決まっているよ」
博士 「紙は何からできている？」
ヤダリン 「木？」
博士 「そうだよ。だから、森がなければ、教科書もなくなっちゃうよ」
ヤダリン 「やったー」
博士 「コホン……。じゃ、ヤダリンも水は飲むだろう？」
ヤダリン 「……」
博士 「森にふった雨の半分は地表を流れたり、じょうはつしたりする。残りの半分は、どうなると思う？」
ヤダリン 「土の中に入る」
博士 「そう。森の地面は、落ち葉などでふかふかの土になる。その土で、雨水がろか※されるとよごれがとれる。そして、土や石のなかのミネラルがとけて、栄養のある、おいしい水になるんだよ」

森のはたらき 1

- ☀️ 二酸化炭素を吸収し、酸素を出し、地球温暖化防止の役目もします。
- ☀️ 雨が森の中の土をとることで、おいしい水をつくります。
- ☀️ 土の中でからみあった根が、大雨で山がくずれるのを防ぎます。
- ☀️ 雨が降らないときは、土に水をたくわえる保水のはたらきがあります。
- ☀️ 木や木の葉、枝などが雨の勢いを弱め、地面の土が流されにくくなります。また、落ち葉や木の枝が水の流れを弱めるせきの役目をします。

※ろか……液体をこして混じり物をのぞくこと